首長と関係団体トップとの語らいで確認するこれからの上下水道

～先進的模範事例の意義を確認し、今後のあり方を考察～

下水道の持続と進化のために留意すべきこと
～年頭に下水道の潜在能力を再確認～

旭川市下水道事業の特徴、強み

今津市長　本日は大変寒く雪深い中、旭川市までお越しいただき、有難うございます。下水道促進大会後の要望活動などの機会を通じて岡久理事長からは多々勉強させていただいておりますことに改めて感謝申し上げます。本日は、旭川市の下水道についてお話しさせていただけるということで大変楽しみにしております。どうぞ宜しくお願い致します。

岡久理事長　こちらこそ貴重な意見交換の機会をいただき、有難うございます。そして、何よりも当協会の副会長をお引き受けいただいていることに感謝しております。特に今津市長はお若くエネルギッシュで関係行事にも積極的にご参加いただくことで協会活動に活気を与えていただいており、心強く思っています。せっかくの機会ですので、まずは旭川市の下水道事業の特徴、アピールポイントについて改めてご紹介いただけますか？

今津　それでは、幾つか特徴的なことをご説明させていただきます。まず、広域圏下水道を運営していることです。元々は市の単独公共下水道として運営していたのですが、旭川市より上流に位置する5町の汚水を旭川市で共同処理することとして昭和52年に「旭川広域圏水道協議会」が発足し、1市5町の協議会により運営しています。こうした取り組みが圏域のご紹介いただけますと、我々にとっても励みになります。広域化が実現した背景には、地形・地勢がありますが、結果として圏域の公共用水域の水質保全に加えて経済性も発揮できていますので、その成果を実感しています。

続いて、ご紹介したいのは、積雪寒冷地としての下水処理水の有効利用です。具体的には、下水処理センターに近接した場所に西部融雪槽を設置し、下水処理水を用いた融雪を行っています。除排雪が市民の大きな要望になっている中、年間700万立方㍍にもなる排雪量のうちの約1割を引き受けています。

日本下水道協会理事長
岡久 宏史氏

成熟化への貢献を目指し
これからは「ノーエントリー」

岡久　実は、このことには私も驚かされました。下水道法上でも難しい面がある中、よく実現できたと思います。ご存知の通り、国交省は上下水道の経営の広域化を目指しており、その先がけとなるものです。国が今後この施策を進める上でも参考になるはずです。

今津　そのようにご評価いただけますと、我々にとっても励みになります。広域化が実現した背景には、地形・地勢がありますが、結果として圏域の公共用水域の水質保全に加えて経済性も発揮できていますので、その成果を実感しています。

岡久　融雪施設は札幌市でも実績がありますが、もっと多くの雪国で実施すると良いのにと思っています。市民の方々に下水道の持つ潜在能力を知ってもらえば下水道の存在価値をさらに理解いただけるはずです。もっと胸を張ってアピールしてほしいですね。

今津　有難うございます。さらなるPRに努めるように致します。理事長が言われたように市民生活への貢献度という点でも下水道の持つ潜在能力は高いと思っています。その観点から、下水汚泥の肥料化の研究にも着手しています。昨今、懸念されているPFASの知見に関わる動向も注視しながら研鑽していく方針です。

岡久　下水汚泥の肥料化に込めた理念は循環です。その視点から私は国交省の下水道部長時代にビストロ下水道を打ち出しました。下水汚泥を活用した肥料を施肥することで作物の品質が向上することが確認されていますし、土壌も元気になって農業分野にも貢献できます。是非、検討を進めていただきたいですね。

協会活動の意義と期待

今津　要望活動等に参画させていただいたことで、私は下水道協会の活動の意義を深く理解しておりますが、改めて協会運営に向けた思いを伺えますか？

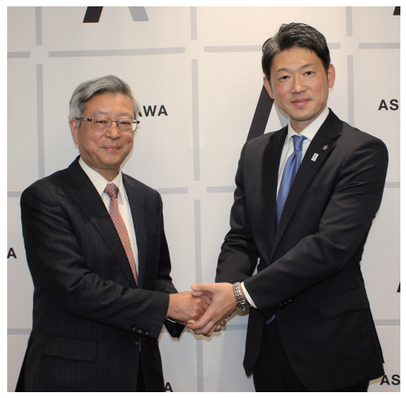
岡久　理事長として心がけているのは、「会員の為」に仕事をすべきということで、職員にもこのことをしつこいぐらい指示しています。協会の活動理念については、5カ年計画の中でも整理していますが、成長と変革、さらに進化によって、私の好きな言葉でもある成熟化への貢献を目指しています。その実現のための協会の役割が、スポークスマン、シンクタンク、ナレッジとなるわけですが、特にスポークスマンが会員にとっては非常に大事な役割だと思っておりまして力を入れています。

今津　確かにスポークスマンとしての活動には力を入れておられますね。

岡久　当然、提言活動もその一つとなるわけですが、今津市長には精力的に動いていただいて大変心強く思っています。

今津　要望活動はどの位の頻度で行うべきものなのかと改めて考えているところですが、既に十数回も参加させていただいて、その重要性は強い実感とともに理解しているつもりです。能登半島地震と八潮市の道路陥没事故は、下水道が抱える重い課題を浮き彫りにしたわけですが、老朽化対策と耐震化は待ったなしです。我々政治家の役割は、専門家の意見とその内容をしっかり咀嚼して政治的に高めることと認識しています。協会活動を通じて、会長の大西熊本市長をはじめ、前副会長の上地横須賀市長、現副会長の佐藤宇都宮市長といった錚々たる大先輩がおられることで、私も多々勉強させていただいています。日本最北端の中核市として、私自身、日本のためにという思いを強めています。そうした政治家としての活動を実効性あるものとするためにも、専門家のご意見は重要です。岡久理事長はチコちゃんと2回も共演していますし（笑）、国民にもしっかり説明できるセンスもお持ちなので我々としても大変心強く思っています。

旭川市長・日本下水道協会副会長
今津 寛介氏



下水道の潜在能力を広く浸透させる年に

下水道の持続と発展を見据え

岡久　年頭でもあり、今後に向けた展望をお聞かせいただきたいですね。

今津　旭川市では、今年の4月に水道局の機構改革を予定しています。水道局は、かねてより下水道事業と一体的な運営・組織体制を構築していますが、一昨年4月に国の水道行政が移管されたことを受けて、国交省が打ち出した「上下水道一体」に呼応するとともに、限りある技術職員を効果的に配置することを見据えて、技術系における計画、工事、維持など部門ごとに集約します。この新たな体制により、上下水道一体での耐震化を目指し、いわゆる急所施設の耐震化や重要施設に接続する上下水道管路等の耐震化を進めていきます。下水道の老朽管対策についてもストックマネジメント支援制度を活用して対策を強化します。本市がこのような取組を進めるに至ったのも、協会の副会長として経験を積むことができたからこそです。そして、今後の事業運営については、ウォーターPPPの実践に向けては、なかなか難しいものがありますが、理事長をはじめとする各方面からご指導をいただきながら、着実に進めていきたいと考えています。

岡久　ウォーターPPPに関しては、基本的には性能発注ですから、いかに的確に履行を確認するかが重要なポイントになります。私は、公平・公正に確認・評価できる独立した機関が必要と考えています。要は、お互い信頼しあって、いかに官と民とでうまくやっていくかということです。その為の仕組みが必要です。

今津　市内の民間企業の方々も今後に向けて不安感を持たれている印象がありますので、それを解消することは重要です。水道局に対しては、民の側にもマンパワー不足の課題があることへの理解も促していますが、こうしたことからも協会のサポート、アドバイスが必要と感じています。

岡久　いずれにせよ、これからは甲乙ではない共に対等なパートナーという意識が大切です。

今津　そのパートナー候補との出会いの場になるのが下水道展ですね。私も会場で技術の最先端に触れて驚きの連続ですので、自治体関係者だけでなく、国民の皆さま、特に子ども達に見ていただきたいですね。下水道事業を支える日本の名だたる企業の存在を確認することと併せて下水道への理解が深まることでしょう。

岡久　今年は東京での開催となりますが、職員には毎回新しいことに挑戦するように指示をしていますが、今年の新たな取り組みの一つとして、新規ゾーンを設置することにしました。「IT・DXゾーン」と「NoEntry管路診断ゾーン」を新設します。八潮の陥没事故を受けて設置された委員会の家田委員長の提案で、これからは「ノーエントリー」、つまり人の入らない管路管理を目指すべきだとの提言がまとめられています。そのためにはAI等を駆使していくことになりますが、そのような最先端の技術に触れていただければと考えています。旭川市でもノーエントリーはいかがですか？何しろ下水処理場でバナナも作っている先進性がありますから（笑）。

今津　是非、トライしてみたいですね。旭川市で実現できれば他にも拡がっていくでしょう。そのためにもまずは予算の確保を目指さねばなりませんね。

岡久　今後の下水道の進化のためには、下水道の持つ潜在能力の高さを広く浸透させる必要があります。例えば、下水は沢山の情報を持っています。東北大名誉教授の大村先生は、コロナのサーベイランスが注目される以前からノロウイルスで検証されていましたが、先生は「地域の人々の健康状態が測れるのでは」とも仰っています。また、京大名誉教授の松井三郎先生は、「下水道に入ってくる抗生物質耐性菌をチェックして、流行を監視しながら新薬開発にもつながる」と主張されています。米国では麻薬の取り締まりにも使われているということですので、このような「情報」これは下水道が有している潜在能力の一例ですが、「情報」という視点からも発想を拡げてみるのも面白いです。

今津　それにしても、理事長からどんどん斬新なアイデアが出てきますね。「下水道と健康」は市政を司る者としても良いキーワードになります。年頭から今後の下水道事業運営に向けた貴重なヒントをいただき、有難うございました。

岡久　こちらこそ溌溂と協会活動を支えて下さる市長の前向きなご意見に触れて、今後へ期待感を高めています。有難うございました。